

令和3年度 公立小松大学入学者選抜試験
一般選抜（中期日程）試験問題

小 論 文

【国際文化交流学部】
国際文化交流学科

（注意事項）

- 1 問題用紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は本文4ページです。答案用紙は2枚です。
- 3 答案用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 答えはすべて答案用紙の指定のところに、横書きで記入しなさい。
- 5 アルファベット文字や数字は、1マスに1字で記入しなさい。
- 6 字数制限のある解答については、句読点を1字と数えること。
- 7 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

著作権の関係上非公表としております

出典：「これからの学歴の話をしよう"知の差別"が招く分断」（2020年10月21日
日本経済新聞）

[問1] 下線部(A)「許容される偏見の最後のとりで」という表現について、①から③の要素を含み、200字以内で記述しなさい。

- ① どのような層の人々が
- ② どのような偏見を有しているのか
- ③ そのような偏見が「許容される」のはなぜか

[問2] 下線部(B)「誰もが平等な条件で競い、実力で勝ち取った結果なら致し方ないが、そもそもスタートラインが同じではない」状況は、日本社会においてはどのような場でみられるか。具体例を、600字以内で記述しなさい。

II 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上非公表としております

注) **クエーカー**：イギリス発祥のプロテスタントの一宗派。同国では非国教徒として公職から排除された一方、産業資本家として成功するものも少なくなかった。

ワーキング・クラス：労働者階級

出典：武田尚子『チョコレートの世界史 近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石』
(中公新書 2010年 204～207頁)

- [問1] 下線(A)に関し、イギリスのクエーカーの人々は、ココアをどういう存在として扱っていたのか。60字以内で答えなさい。
- [問2] 下線(B)に関し、二十世紀にココアやチョコレートが工場で規格品として大量生産・大量消費されるようになったのに対し、十九世紀のあり方はどんなものだったといているのか。120字以内で答えなさい。
- [問3] 下線(C)に関し、現在では誇示的消費スタイルは珍しいものではなくなったが、この消費スタイルについて、ココアやチョコレート以外の例をあげながら、あなたの考えを400字以内で述べなさい。